

令和7年度第1回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 令和7年8月20日（水） 13時28分～14時30分

2. 会議場 松浦市役所4階委員会室

3. 出席者

松浦市長 友田吉泰

松浦市教育委員会 教 育 長 黒川政信

松浦市教育委員会 教 育 委 員 石黒修子、前田弘子、氏山智美

〔事務局〕 教育総務課 教育次長兼課長 土谷由子

学校教育課 教育次長兼課長 佐藤利枝

生涯学習課 課長 中野正和

文化財課 課長 内野義

教育総務課 課長補佐 宮本京平

4. 内容

(1) 市長挨拶

(2) 教育長挨拶

(3) 協議

①「ながさきピース文化祭2025」を今後どのように活かしていくか

ア. 第3期松浦市教育振興基本計画における「文化芸術活動の推進」「文化財の保護と豊かな伝統文化の振興」にかかる目標と施策について

イ. 「ながさきピース文化祭2025」の概要と今後について

(4) その他

5. 傍聴人 無

6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	それでは、定刻前ではございますが、ただいまから令和7年度第1回松浦市総合教育会議を開催いたします。本日は吉住委員が仕事の都合により間に合わないご連絡がっております。はじめに友田市長がご挨拶申し上げます。
市長	皆様改めましてこんにちは。令和7年度第1回松浦市総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員皆様方には大変お忙しい中にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から松浦市の教育行政について、大変お力添えを賜っておりますことをお礼申し上げます。この総合教育会議は年2回程度実施をしているところでありまして、今回のこのテーマについては、この9月14日から長崎県において開催されますながさきピース文化祭2025に向けて機運の醸成を図っていて、本番が間近なわけでありますけれども、それを今後はどう活かすかということについて、皆様方と協議をしたいと思っています。終わってから、その反省を踏まえてやるという手法もあろうかと思っておりますけれども、機運の醸成を図っている今、現時点でどのように実施するのかということをもとに共有すること。そして、そこでこういう効果が得られるのではないかなというようにことを皆さま方と共有して、そして、実際に本番にあたって配慮すべき点等があれば配慮し、さらには今後の松浦市の

	文化行政の進展にどう繋げていくかということが重要だろうと思っております。第3期の松浦市教育振興基本計画の中に、文化芸術活動の推進ということが書かれているのですが、文化の国体と言われるこの大会を松浦市で開催した。これが1つの大きなポイントになって、これから松浦の文化がこう変わりました、充実しました。そんな機会になれば本当に素晴らしいという思いがあるものですから、ぜひ皆様方にもご意見をいただきながら本番に臨みたいですし、それを今後につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
教育総務課長	ありがとうございました。続きまして、黒川教育長からご挨拶をお願いいたします。
教育長	失礼いたします。教育委員会を代表しまして一言ご挨拶申し上げます。本日は、本年度第1回目となる総合教育会議を開催していただきまして誠にありがとうございます。小中学生は今夏休み中で、7月下旬から8月上旬にかけては、生涯学習課担当のもと、国際交流・国内交流が実施されました。国内交流においては、その1週間は天気があまりよくなかったもので魚釣り体験などができなかった面もありますが、各小学校や御厨中学校の平和学習に参加したりして、無事に終了したところです。市内小中学校も来週の月曜からは2学期がスタートします。夏休みが令和4年度からは少し短くなりまして、8月25日に2学期の始業式を迎えます。子どもたちからも、もっと長くしてという声もあまり聞かれなくなって、大分定着してきたのかなと思っています。さて、本日は、先ほど市長からもありましたが、ながさきピース文化祭2025を、今後どのように活かしていくかのテーマで意見交換するようになっています。前に市長もおっしゃいましたが、人口減少や少子化の問題はあります。そんな中でも、文化、歴史、交流、平和など、さらに充実発展できるものもあると思います。本日は有意義な時間になりますよう、どうぞよろしくお願いいたします。
教育総務課長	ありがとうございました。それでは協議に移らせていただきます。規定により、議長は市長が務めるとなっております。お願いいたします。
市長	はい。それでは、議題のながさきピース文化祭2025を今後どのように生かしていくかについて、協議に入りたいと思います。冒頭に申し上げました通り、文化の国体と言われる大きな大会が長崎県で開催されます。松浦市においても、9月14日を皮切りに実施をしていくわけがあります。この中で、皆様方にはまず、今回松浦市がどんなことをしようとしているのかということをご理解いただくとともに、先ほども少しお話があった福井さんのように、これまで我々があんまり認知していなかったような芸術家というか、文化活動をなさっている方を発掘できたという意味では、大きなポイントかなと思います。我々が実際に知らないだけで、松浦市内にも本当にその文化に造詣の深く、そういった活動をされている方がいらっしゃるのではないかと。そういった方々を、これまでの市の文化展だとか、展示会だとか、そういうところに、なか

各委員	なか市民の皆さん方にお知らせがいかなかったとするなら、まさにこれから、そういったものを皆さんとともに考えていけばなと思っていますところ。この文化祭に向けて、どんな準備をしていて、現状はどうなのかっていうことを少し説明していただければと思うのですけれど、いかがでしょうか。
教育総務課長	(了承) では、よろしいでしょうか。まず、この第3期松浦市教育振興基本計画の中で、どのように目標等を掲げているかというところをお示しいたしまして、それから、全体の文化祭の概要をご説明差し上げたいと思っています。資料ですけれども、松浦市教育振興基本計画の抜粋分をお手元をお願いします。本市の教育行政を総合的、かつ計画的に推進するために策定をいたしました、第3期松浦市教育振興基本計画。これにおける文化分野の課題や目標について確認をさせていただきます。20ページと記載があるところをご覧ください。中ほどでございますけれども、文化芸術活動を推進する上での現状と課題について記載しているのですが、文化団体の活動を尊重し、芸術鑑賞や発表の機会提供として、団体の活動を支援することが必要であるということと、また、団体構成員の減少や高齢化が課題となっている。そして今後、文化活動への参加促進や新規団体の立ち上げ支援に取り組んでいかなければならない状況というのが課題となっております。23ページをご覧ください。文化財の保護と伝統文化を継承する上での現状と課題について記載しております。文化財や歴史を地域活性化に生かそうとする動きがある中で、本市の多様な文化財を総合的に保存活用していくことを目的とした文化財保存活用地域計画を策定しております。そして、取り組むべきアクションプランの実現を目指しているということです。こういった現状を踏まえまして、各目標を達成するための施策というものを、この計画では掲げておりますが、今回のピース文化祭に関連する取り組みとしましては、47ページをお願いいたします。施策2の文化芸術活動の推進としておりますけれども、市民文化祭、今回の国文祭の文化芸術の発表や鑑賞の場の提供に努めるとともに、また文化芸術団体の後継者育成を行うため、文化協会などの団体と連携をして、現地に直接触れ合える場の提供に努めること。また、文化会館の自主事業を充実させるということ。そして、文化部門で優秀な成績を収め、文化振興に功績があった団体や個人を表彰し、市民の文化熱の高揚につなげることなどを主に取り組むことといったしております。以上、文化分野に関する教育振興基本計画の目標と施策についての概略の説明でございます。
生涯学習課長	それでは私の方から、今回、国民文化祭として松浦市で行われる地域文化発信事業について、具体的にどういうものをするかというところを説明させていただきたいと思います。お手元にお配りしております資料のチラシが3つ、それぞれ両面印刷。それともう1つ、緑の冊子でこれは文化財の方ですけれども、歴史ガイドブックを置かせていただいております。それとA3横のピース文化祭の松浦市実施事業一覧です。国民

	文化祭の大枠についてはこれまでも定例会とかで説明してきておりますので、今回は具体的なこの事業の内容についてお話をさせていただきたいと思います。松浦市では5つの事業を柱として取り組んで参ります。まず1つ目が松浦みんなの作品展です。こちらは開催を9月13日、14日の土日に文化会館で行います。事業概要でございます。例年実施しております市民文化祭の作品展示を拡充した形で、障害のある方々による作品を加えまして、一堂に展示することといたしております。今回、国民文化祭の特別的な開催ということで、本市出身の辻利平画伯の絵画展。劇作家岡部航大氏に関連する資料を展示する回顧展などを特別的に開催するようにしております。それと先ほどからお話があつております、福島町出身の福井誠さんという作家さんの作品を展示するようにしています。福井誠さんについてですけれども、この方はアール・ブリュットという世界で評価を受けておられまして、現在も活動なさっている方です。このアール・ブリュットというのは、伝統とか流行に左右されずに、自分自身の内側から沸き上がってくる衝動といいますか、いろんなものをそのままに表現された芸術作品というものを指すということでございます。美術教育を受けていない人とか障害のある人。それから子どもたちが製作した、既存の美術の枠にとらわれない自由な発想のもとに作られた作品が特徴というものでございます。お手元のピンク色のチラシです。松浦みんなの作品展。これが9月13日、14日に開催される作品展のチラシになっております。このチラシに使わせていただいている絵が福井さんの作品になります。後で、実際にこの作品展で掲示する絵を見ていただこうと思っております。そともう1つ、派手なチラシがあると思いますが、9月の6日から16日にかけて、長崎県美術館の県民ギャラリーで開催されるアール・ブリュット展のチラシになります。このチラシの表紙を飾っているのが、福井誠さんの絵になります。裏を見ていただきますと、青文字で書かれている中程の白い文字のところなのですが、こだわりがその人を映し出し、見る人の心を揺さぶる。今回は数十年にわたり国内外の展覧会で活躍されてきた作家から若手の作家まで45人を全国から選抜し、絵画造形の部分で約400件の展示ということになっておりまして、右側に作家のお名前がありますけれども、その下から4番目に長崎県福井誠ということで掲載されています。こういう世界で注目をされておられる方です。普段は福島町で生活しお仕事もされていて、活動については土曜日の朝から1日中、作成に取り組まれているということでございます。この方の絵も、長崎県の方に多数貸し出しされておりました、我々も多く飾りたかったのですが、先に長崎県の依頼が早かったということで、それ以外の作品を松浦市の今回の作品展で展示するようにしております。資料に戻り、併せまして今回福祉施設等による和風作り、手話などの体験会を実施するようにしております。先ほど市長からもありましたように、作家の発掘ということが今回福井さんに関してはやったのですが、今後こうした埋もれた作家さんの発掘が重要になってくると思います。発掘をして把握して、その功績だとか作品を皆さんに披露する。その情報をどうとらえるかということが課題になろうかと思います。なかなか難しいとは思いますが、我々は常にアンテナを張って、その分野のあらゆる方向から情報を仕入
--	---

	れる。コツコツとした作業が重要になってくると思います。続きまして2つ目の松浦郷土芸能共演会。これは9月28日、同じく文化会館で行います。事業の概要ですが、市内各地域で行われている、太鼓や蛇踊、神輿等の郷土芸能を集め、ステージで披露をするようにしております。また、民話の語り。それから親善友好交流自治体である長野県木曽町の木曽節。それから姉妹都市交流を再開したモンゴル国ホジルト郡による馬頭琴の披露を予定しております。こちらでもステージ周辺で福祉施設等による和風づくり、手話などの体験会を実施するようにしております。併せてアジwaiフェスタ、3つ目の事業として記載しておりますけれども、これも開催するようにしております。さらにサテライト会場として、市の指定民俗文化財である淀姫神社の流鏑馬を披露するようにしております。場所は淀姫神社の馬場において行われます。次に3つ目のアジwaiフェスタですけれども、9月28日となっています。こちらの方は、現在、全国的にも知名度が高くなりましたアジフライ。この他、松浦のこれぞという逸品を取り揃えた「松浦の極み」の戦略産品や郷土料理。そして松浦高校生や福祉施設による食品等の販売を展開していきます。この他、食に関するパネル展の展示を開催いたします。この郷土芸能の共演会、それからアジwaiフェスタについては、このチラシ裏表に掲載をしておりますが、松浦郷土芸能の出演団体につきましては表に掲載しております。裏面の下段にはアジwaiフェスタの出店者を掲載しております。郷土芸能の方ですけれども、チラシの一覧に記載しておりますが、他に、無形民俗文化財としてお配りしている松浦市の文化財の資料に載っているのですけれども、星鹿のジャンガラとか牟田のジャンガラ。そして田ノ平浮立、福島浅谷浮立が指定されているのですけれども、そちらの方にも出演依頼をしたのですが、田ノ平の方は、ちょっと繁忙期と重なるということもあり、難しいということです。他は今大きな課題になっております後継者不足ということで、練習するにしても人間が足りない。出演にしても練習ができないので難しい。多くの団体がそういった事情で、出演ができなくなっております。もう1つすいません。鷹島の島踊りについては、島踊りの構成っていうのが、大幟、六本幟と言われるもの、須古踊り、奴踊り、それから浮立。これらで島踊りが形成されているのですけれども。今回この松浦市のピース文化祭で開催するものについては、今言った後継者不足によって、大幟の2本。三里地区と原地区の2地区以外での出演は難しいと。中でもお囃子とかですね、こういった演奏ができない状態でありまして、他の地区は無理だということなのですが、原と三里についてはご協力いただいて、幟を披露するだけでもやりたいとご協力をいただきました。お囃子については、六本幟で使われる楽曲ではないのですけれども、地元の宮司さんのご協力をいただいて、雰囲気を出すために演奏していただけたということでの出演になります。先ほど申しましたように郷土芸能につきましては、各地域、市内全域ですが後継者不足。これは以前から最大の課題としてありまして、いずれの地域も、継承方法を模索されている状況でございます。我々としては、この松浦での郷土芸能披露ということで、この機会にもう1回、新たに1からスタートを切っていただきたいという意味合いを込めて披露していただきたいと思ったのですけれども、それすらできなくな
--	--

市長	った状況でありまして、すでにもう危ぶまれる状況に陥っていることが、今回露呈したというところがあります。それに向けて、やはり永代引き継がれる仕組みづくりが必要かなと思っております。そのためにはまず、今ある状態での活動の記録。これが重要かなと思っております。すでに文化財課の方で映像の記録・保存に取り組まれている状況にあります。あとは地元の方々が、この現状をどのように考えておられるのかということ把握する必要があるのではないかなと思っております。行政の立場としては、アンケートとかに取り組んで、地元がどう思っておられるのかということ把握した上で、地元の方とともに、今後そのように地元の持つ機器、楽曲、衣装など、どのような思いで作られていて、そういうことをきちっと伝えていく必要があると改めて思います。そしてその次に地域の方、これは地域に所縁のある方々も含めてですけれども、情報の発信をしていくということもできるかなと思っております。一覧の4つ目の事業が、元寇所縁の子どもサミット。事業概要は、令和6年、一度目の元寇から750年を迎え、これを機に元寇から国を守った鎌倉武士に所縁のある地域の小学生が各地域の歴史について学習し、オンラインで発表する。併せて元寇に関連した歴史演劇実演によって歴史に関する学びを深めるとともに、元寇所縁の自治体の首長による会議を開催し、意見交換を行うものでございます。そして最後の5つ目ですけれども、21世紀の歴史の中で「元寇」を考える高校生会議。こちら元寇所縁のある高校生。自らの地域の、歴史と国際的な繋がりについて研究した内容を発表して議論していただく。ということを考えています。ひとまず事業の内容については以上でございます。 ありがとうございました。事業の内容、並びに今回、ピース文化祭を開催しようとして発掘された芸術家の方や、課題などについて説明があったところでございます。では、委員の皆様方から、もう少し詳細にとか、どのようなことがあればとか、意見を出していただければと思います。郷土芸能、そういったものをどう残していくのかというのは、これは全国的な課題だなと思っております。昨日NHKで、鹿児島県の伊佐市だったかな、浮立のような踊りをデジタル化しているというのをやっていましたよね。ですから、どういう手段にするのかということなのですから、後世に残すって意味では必要な時期なのだろうと思います。そこで先般ですね、企業版ふるさと納税とかでトップセールスで各所を回ったのですが、その時に、図書館流通センター。松浦市の図書館にも本を入れていただいているところなのですが、その重役の方とお話をする中で、デジタルアーカイブシステム、ADEAC。これを戸塚図書館流通センターが持っているというところで、そこで話があったのは、そういった郷土芸能とか、そういうものは博物館を作って残すというのは難しいと。だからアーカイブ化して、そこがもう博物館ですというような位置付けでやる自治体もあるということでした。ここは、松浦市の図書館を通じて、ある程度コンタクトのあるところですから、是非その辺も、研究していただいて、先ほどの六本幟のように、なかなか復活させようとしても難しいところがあるでしょうし、そういったところの画像だと、そういうのがるのであれば、是非、こういったところの
----	---

	活用ができないかと思ったところです。委員の皆さんの方からいかがでしょうか。どうぞ、石黒委員。
石黒委員	これだけすてきなチラシもできていますし、当日に、よりたくさんの方に見ていただいて、それから繋げるということになると思うのですが、そのための今後のPR活動、予定とか、どう考えておられますか。
生涯学習課長	PRにつきましては、チラシを市内にプラスして、近隣の佐世保と、それから佐賀県側、伊万里を含めてですね。有料にはなるのですが、通常、いろんな情報発信をされているチラシに新聞折り込みをしていきます。併せて、伊万里駅のデジタルサイネージなどで情報発信をしていきます。
石黒委員	チラシはどれくらいの時期に各家庭に配布されますか。
生涯学習課長	予定では来月の頭になります。9月です。
市長	9月の市報と一緒に。
生涯学習課長	そうです。実は今日配ったものは出来立てで、多分生涯学習課以外に出すのは初めてです。多くの人の目につくように考えております。
石黒委員	よろしくお願いします。
前田委員	同じくPRのことなのですが、なかなか周知が難しい。特に福島、鷹島の方は、中々こちらの方まで見に来るということが難しいところがある。そして、チラシが回覧で回っていてきても、次に回すことで手一杯で、よく見ないまま次に回すということもあるので、もしよければですが、今は防災無線を使った広報の放送が1回しかやっていない。色々苦情があったりしているっていうのも知っています。けれども、繰り返して2回言っていただければ、最初の聞き逃した人も、もう一度聞けるし、区長会とか民生委員とか、そういう団体の長を通して、こういうのもありますよとお知らせできたらと思います。そういう横繋がりというか、そういう方向で流していくっていうのも1つの手じゃないかなと思います。地域で暮らしていくと、お年寄りも多いですから見えてくるところが、そういうところかなと思っています。もし、できるならやっていただければいいかなと思います、以上です。
市長	ありがとうございます。氏山委員。
氏山委員	初めてこれを見て、かっこいい絵と思ったのですが、まさか松浦の人だとは知らずに、どのように発掘されたのかなって思っていました。あと、田ノ平浮立は、小中音楽会で子どもたちがやっているのですが、何となくわかるのですが、星鹿のジャンガラとかは見たことないので、映像を撮られているということであるならば、市民が結構足を運ぶ、図書

生涯学習課長	館や公民館でもいいですし、青プラザとかでもいいし、それを映像流しっ放しとか、そういう感じにしてもいいのかなと思いました。 まず福井さんなのですが、ご兄弟いらっしゃって、お兄さんも以前、絵を書かれていたみたいで、一緒に長崎市の方で個展を開かれたことがあったそうです。その時にNHKの目に留まって、それから東京芸術大学にNHKから連絡がいき、それから東京芸術大学とNHKと文化庁の主催で開かれる特別展がある時に出展され、さらにNHKの番組、ノーアート・ノーライフっていう5分か10分の番組なのですが、それをうちの図書館の職員が見たことがありまして、名前を知っていますと。それから福井さんに繋がり、接触して今回の展示に至っています。それから映像という部分についてですけど、郷土芸能のオープニングの際に、今言われたような内容で映像を作る予定でございます。短い時間ではあるのですが、今回、出演ができない団体も含めて、これまで文化財課の方で撮っていただいた映像も使って、市内全体の郷土芸能を網羅した画像を作るようにしております。それをPRのために流せばいいかなと思っております。
市長	文化財課に今あるのは、先ほど言ったジャンガラとか、浮立とか、そういうのがあるのですか。
文化財課長	今、画像記録という形で撮っているのが、まず鷹島の島踊り。島踊り保存会が、それぞれ六本幟から、浮立、須古踊り、そういったものを全部撮った画像データがあります。その後、近年取り上げているのが、田ノ平浮立、松山田浮立、星鹿ジャンガラ、牟田ジャンガラ、それから百手講。そういったのはこちらの方で、未編集の状況ですけど記録として、データとしては撮っているというような状況です。
市長	そうすると、それをどう公開していくかというところでしょうね。先ほど申し上げた図書館流通センターのシステムとかも少し研究をしてみてください。今後これをどう生かしていくかというのが今日の主テーマなのですが、先ほど生涯学習課長も申し上げた通り、やっぱり今回を新たな発掘というかスタートというか、そういうことにする。文化活動というのは、やっている人たちは一生懸命やるのだけど、それを鑑賞する側の人たちに、いかに広げていくかっていうのが大きな課題だと思うのです。よくあるのが、自分たちの身内の演技だとか、身内の発表は見るけれど、身内の発表が終わるとさっと帰ってしまう。よくあるパターンですよ。その辺をどう高めていくかっていうところが重要で、どこでも同じなのかもしれませんが、何か惹きつけるようなところが大事なというふうに思います。少なくとも、長崎県に初めてこのピース文化祭が来て、様々な団体が長崎県内で9月から11月にかけてやられますので、少なくともマスメディアの報道は出ると思うのですね。そういったことを通じて、松浦市民の皆さんも、そういうことが開催されるのなら、前田委員がおっしゃったように、行ってみようか、見てみようかということになる。加えて、私にもできるのではないかっていうね、

	そういうことで文化に触れていただくとか、そういうことができればいい。この中で風作り体験とかありますけど、それと同じように、体験会みたいなね。そういうのを実施されている方々が、可能であれば体験会をしてもらおうとか、刺激を受けて自分もやってみたいけど、どうすればいいかわからないっていうことで広がらないというケースもあるのではないかなと思うのですよね。いきなり、この福井さんのような絵を描けと言われても描けないけれども、こういうことならやってみたいとかね。今までの作品展なんかでもそうですけれど、例えば辻田さんの絵があるじゃないですか。ものすごくシンプルなものですよ。でも描けそうで描けない。でも辻田さん自身も、最初は絵手紙教室か何かに子供と一緒に行って、それから始めたっておっしゃるのですよね。だから、辻田さんが体験されていることを、実際に子供たちだとか市内の人たちに、ちょっとやってもらって広げてもらおうとか。そういうことができれば、本当にこのピース文化祭において、松浦で動き出したことが繋がっていくかなって気はします。こういった点でいかがでしょうか、皆様の方から。はい、前田委員、どうぞ。
前田委員	市長がおっしゃる通り、子どもたちに見せて、子どもたちが鑑賞して感動を得て、そしてその感動が子どもたちの心を揺さぶり、やってみたいとかやりたいとかいうふうな気持ちになってくるのではないかなと思うので、できれば9月28日は、子どもたちがたくさん来ることができるよう、何か手だてができないかなと思っています。今、私たちも福島の4、5人で読み語りをしているのです。6年目に入っていますが、フェイスアートを使ってやるのが、1年に1回あるのですけれど、それを小学校で見せたら、あ、やってみたい、という子どもたちが何人かいて、将来的には、今、自分たちだけでやっているのを、1週間に1回は午後にもってきて、そこにやってみたいという子どもたちを集めて、一緒にやって、町の文化祭とか、もしよければ学習発表会とかで発表もしていけるようにしたいなというのは、何年も前から私たち考えている一つなのです。ですから、今回のこの鑑賞をして、自分もしてみたいというふうな思いを持って、子どもたちが帰ってきたら、公民館講座とかもあっているんで、その人達の中から何人かでも、午後4時とか、3時半とか、その辺りで講師としていいですよっていうふうな話になったら、放課後クラブじゃないですけど、それと抱き合わせなので1週間に1回とか、スポーツじゃなくて文化の方で継続していけるようになればと思っています。浅谷浮立とか映像で撮っていただきましたけれど、今後どうなっていくかわからないなという部分もあるので、持ち帰ったらもう1個噛み合っていないかなと思ったりしながら考えたところです。
市長	やっぱり担い手ってなると、まずは子どもたちが興味を持ってもらうということが大事ですね。9月28日の郷土芸能大会に子どもたちが出るのもいくつかあるのですかね。
生涯学習課長	蛇踊りについてが、まだ小学生が出演できるかどうかはわかっておりません。

市長	そうですか。でも 9 月 28 日は間違いなく、蛇踊りは 10 月の 17 日の本番に向けた練習が始まっていますよね。
氏山委員	9 月から練習がありますので、子どもたちの仕上がり具合次第かなと思いますね。何人集まるかにもよるのですけれど。
市長	福島は是非、木曽町から木曽節を披露しに来ていただけるので、生涯学習課の川村補佐はじめ、皆さんに是非 PR してもらってですね。この松浦の催しとは別ですが、このピース文化祭の一環で、県の美樹館に蒙古襲来絵詞が来るということで、県の美術館のほうから、是非小学生とか、県の事業で来てくださいよってという依頼がありましたよね。あれ、具体的に実際に子どもたちは行くのですよね、バスツアーは。その報告ができますか。詳細じゃなくてもいいです。
文化財課長	9 月 14 日から 10 月 19 日にかけて、「皇室の名品と長崎」ということで、ここにチラシがありますけれど、蒙古襲来絵詞の前巻、文永の役のシーンの部分になるのですけれど、そこが長崎県美術館に展示されます。それに合わせて、松浦市からもてつほうを貸し出すこととして、併せて展示されることになります。その関連ということで、長崎県美術館の方から、いくつか企画ということで、元寇所縁の自治体の招待券の提供。それから元寇所縁の自治体が主催する展覧会と広報相互協力のご提案。松浦市小中学校との学校連携と、この 3 つの提案を受けまして、この 3 つ目の松浦市小中学校と学校連携ということでは、県美術館のほうが大型バスを出して、市内の小中学生をご案内するという企画でした。5 日間の予定がありましてそのうち 3 日間に市内の小学校が要望されていて、志佐小学校が 2 回に分けてで、2 回目の志佐小学校に合わせて青島中学校が行く、それと福島養源小学校ということで、5 校と言われていたのですが、3 校が大型バスを使って行くことになっています。12 日はオープニングセレモニーがあるということで、今日付けで、市長、教育長にも招待の案内が来ていました。招待券とかも松浦市内だけで 300 枚配ることになっていますので、どうにかして関係者には配布できればなというふうに思っております。それと関連して、9 月 20 日に水中遺跡関係のシンポジウムをこの県立美術館関連イベントとして行われます。私も一応講師ということで参加します、以上です。
市長	今回私も、この福井さんですね、こういう方がいらっしゃったのだったということで驚きました。是非、ご本人の了解をいただくことが大前提ですが、やはりせっかくですから、こういった作品を、もっと市の作品展だとか、例えば福島の公民館まつりだとか、こういうところとかに積極的に出していただくということと、やっぱりこれがきっかけで、そういった文化とかに関わる人たちが増えて、一番はやはり、それぞれの地区の公民館活動の充実に繋がっていけば素晴らしいですし、さらに市全体での発表会とか、そういうところになっていければ、望ましいなと思っています。なかなか松浦まで皇族の方が、これをご覧になるとい

	うことは、叶いそうにありませんけれども、アルカス佐世保で、開会式があるということです。きっとそういう全体の中に、松浦市出身の福井さんのような作家さんも選ばれし人としていきますとか、そういうことも市民の皆さんにお伝えすることが、普及促進に繋がっていくかなと思っていますので、是非そういった配慮をお願いしたいと思います。他に何か皆様の方の方でお気づきの点ありませんか。すみません。さっきの福井さんの作品を見せてもらいましょうか。
生涯学習課	はい。本物になります。下書きなく、いきなり書き出す。色は後でつけられるのですけど。何か構想しないでいきなり描き出し始めて、作り上げます。最初から完成品を作るよというのはないらしいです。 (福井氏の絵を閲覧中)
市長	今、課長が知っているようなそういったお話を聞かせていただくような機会が、子どもたちにあるといいですね。
生涯学習課長	今回取材してきた内容をある程度まとめて、その展示会のところですね。顔写真とかを飾りたいなと思っているところです。
市長	常設でどこかに展示していただけるような機会があればね。是非図書館とか。ただこの期間だけではもったいないので。
生涯学習課長	パリでも、他のこういった作家さん一緒に展示されたことがあるそうです。
市長	こういう世界的にも活躍されているような方が実際に松浦市民としていらっしゃるということを我々が知らないわけですから、是非この機会に、先ほどのアール・ブリュットということすら我々はよく知らないけれど、最近よくこういう作風とかがテレビでもよく出ますよね。だから是非、身近にそういう人たちがいるということを感じて。そして、既に子どもたちの中にも、ものすごく特徴的に絵を描く子はいらっしゃるかもしれませんよね。そういった子どもたちにも、こういう才能が花開く機会になれば、本当にピース文化祭を松浦市で開催した意義というのに繋がるのかなと思いますので、私は福井さんを発掘できただけでもすごくいいと思います。
前田委員	福島でも、福井さんという絵を描く方がいらっしゃるということまでは知っているのですが、どんな絵を描かれているということまでは知らない方が多いのではないかなと思うので、是非福島で。
生涯学習課長	なかなか地元での個展とかをするということはないですよ。ご本人がよろしければ是非ご提案をして。
市長	今年度から、実際に予算化をして事業着手した福島の支所公民館消防

	署複合庁舎ですね。令和１０年度ぐらいに完成予定ですけど。こけら落としとして、是非福井さんの作品展を公民館でやっていただくといいですね。何かそういうきっかけになるかなと思います。担当課も含めて、ピース文化祭に向けていよいよ一ヶ月足らずですけども、市民への周知はチラシなどをやりますということでした。それ以外にも、周知の手段として何かできることがないのか。例えば長崎新聞の松浦のコーナーがありますよね。ああいうコーナー、県内全部であるので決して目新しいことじゃないけども、例えば郷土芸能大会とアジwaiフェスタが一緒にありますとかやって、アジwaiフェスタに来てもらって、郷土芸能大会も一緒に見てもらうとかですね。
生涯学習課長	今おっしゃった、長崎新聞のコーナーは９月２週目の火曜日に掲載予定です。
市長	それに間に合う感じですね。１１月の方も含めて、ぜひその辺は活用していただきたいと思います。それと今回、ホジルト郡から来ていただくことになっています。去年の８月の１１日ですからちょうど今頃、私もモンゴルに行っていて、そして１９日に調印をしたと思うのですが、それから１年ぐらいですね、調印をして交流再開をして、そして、その一環で、今度は皆さんに是非来てくださいということで、お招きをし、来ていただくのですけれども、その時に馬頭琴を弾いていただき、ホーミーという裏声と生声を一緒に出すような、モンゴル独特の民謡というのですかね、そういうのも披露していただくようになっています。今回、８月６日付で政策企画課に国際交流員、ＣＩＲというのですけれども、モンゴル人女性のＣＩＲを雇用しています。一応令和７年度の任期なのですが、当然延長もできますので、我々としても引き続きお願いしたいと思っています。ご家族で来ておられまして、本人含め３人ですね、３歳のお子さんも含めて。そういった交流ができているということと、実際にこれまで我々一番の課題は、友好交流を旧鷹島町時代からやっていましたけど、なかなかモンゴルの現地の方々とのコミュニケーションがうまくいかなかったというのが課題でした。今回、国際交流員のサラさんが来ていただいたことで、英語も日本語も流暢ですから、我々の意思をしっかりと伝えていただける。今回、この郷土芸能大会に来ていただく時にも活躍していただくでしょうし、これから文化財課の方でも、元寇の遺物の収集ですとかそういうことについて、現地とやりとりするときにも、その方を通じることで、非常に我々が今までなかなかコミュニケーションが十分とれずに、悩んでいたところの解決になるかなと思っています。では、ピース文化祭２０２５を今後どのように生かしていくかという点につきましては、皆様よろしゅうございますか。それでは協議についてはここまでとしたいと思います。続きまして、その他に移らせていただきます。皆様から、その他の件で、何かございますか。はい。なければ、事務局の方から何かありますか。
教育総務課長	次回の教育会議についてです。１月頃を予定しております。詳しくは市長のお考えをお聞きしまして、ご案内をしたいと思います。

市長	わかりました。では、他にないようであれば、以上をもちまして、令和7年度第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。ご協力ありがとうございました。
----	---